

1 「国民の安全・安心の確保」、「力強く持続的な経済成長の実現」、「豊かな暮らしの礎となる地域づくり」に資する社会資本整備の推進

(国土交通省、気象庁)

【要望項目】 予算

- 1 東海環状自動車道大安IC（仮）～北勢IC（仮）間の公表された供用見込みより一日も早い開通を図るよう、さらに整備を加速すること。
北勢IC（仮）～岐阜県境間の開通見通しの公表、早期全線開通に向け整備を推進すること。
- 2 中京圏の高速道路ネットワークを賢く使うとともに、必要なネットワーク整備のスピードアップに向けた財源確保のため、早期に中京圏の高速道路料金の見直しを進めること。
重要物流道路を契機とした「新広域道路交通計画」をふまえ、有料道路事業拡大による財源を活用し、直轄道路事業のさらなる整備推進を行うこと。
- 3 熊野尾鷲道路（Ⅱ期）の開通見通しを早期公表すること。
拡充した「近畿道紀勢線推進プロジェクトチーム」を活用し、熊野道路・新宮紀宝道路の一層の事業推進を図ること。
熊野IC（仮）～紀宝IC（仮）間の未事業化区間（約16km）を平成31年度新規事業化すること。
- 4 国道1号北勢バイパスの国道477号バイパスまでの開通見通しの早期公表、全線開通に向けた整備を推進すること。
国道23号中勢バイパスの全線開通に向けた整備を推進、既開通区間の渋滞解消に向けた4車線化や立体化を推進すること。
鈴鹿四日市道路を平成31年度新規事業化すること。
- 5 国道1号桑名東部拡幅（伊勢大橋架替）の整備を推進すること。
国道42号松阪多気バイパスの渋滞区間の立体交差化に早期工事着手すること。
- 6 鈴鹿亀山道路の都市計画決定手続きに関する調査を支援すること。
名神名阪連絡道路の国による調査を推進し、早期実現を図ること。
鈴鹿亀山道路および名神名阪連絡道路を「重要物流道路」として指定すること。

- 7 浸水被害軽減のため、木曾三川および鈴鹿川・雲出川・櫛田川・宮川、平成 29 年台風第 21 号により甚大な被害が発生した勢田川において、治水対策および地震・津波対策を推進すること。
- 8 川上ダムについては、2022 年度の事業完了に向け、必要な予算を確保するとともに、一日も早く完成すること。名張川および木津川・服部川・柘植川の直轄河川改修事業を推進すること。
- 9 三重県内における木津川水系直轄砂防事業をより一層推進すること。
- 10 七里御浜海岸における侵食対策を直轄事業化すること。
熊野川緊急対策特定区間における直轄河川改修事業を推進すること。
熊野川の総合的な治水対策協議会でとりまとめた取組を確実に実施するため、国によるマネジメントを強化すること。
- 11 2021 年開催「三重とこわか国体」会場周辺を含む津松阪港直轄海岸事業を強力に推進すること。
- 12 国営木曾三川公園（桑名七里の渡し公園）を早期に全面開園すること。
- 13 市町における警戒避難体制を支援するため、土壌雨量指数の高精度化を早期に実現すること。

《現状・課題等》

- 1 東海環状自動車道の沿線地域では、部分開通や開通見通しの公表により、企業の設備投資が進められています。また、四日市港では、臨港道路の整備など施設の充実を図っており、昨年の外貨コンテナ取扱個数は過去最高を記録するなど効果が発現しています。さらに、今年 1 月から外国客船が寄港し、四日市港がインバウンドの新たな玄関口となっています。
さらなる企業の計画的な設備投資や物流の効率化、観光交流の拡大のためにも、東海環状自動車道の一日も早い全線開通が必要です。
- 2 中京圏の高速道路の見直しについて、国土幹線道路部会で議論が開始され、今後、「(仮称)中京圏小委員会」で議論が進められることとなりました。物流や製造業界においては、ドライバーの人手不足が深刻であるとともに、輸送時間を短縮して物流の効率化を図ることが求められています。高速道路ネットワークを賢く使う取組を一層進めることが必要です。
国土交通省では、物流上重要な道路輸送網を「重要物流道路」と指定し、機能強化・重点支援を実施する「重要物流制度」が創設されました。平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保するため、各地域で新たな広域道路ネットワークの検討が進められています。今後、策定される「新たな広域道路交通計画」をふまえ、有料道路事業の拡大による県内直轄道路事業の整備推進が必要です。

3 東紀州地域は、国土幹線軸から離れているという地理的条件から、交通体系の整備が遅れており、発生が危惧されている南海トラフ巨大地震への備えとして、高規格幹線道路の整備によるネットワークの強化が必要です。また、現道の国道 42 号は台風や豪雨による河川の氾濫で通行止が発生していることから、国土強靱化に向けた国道 42 号のダブルネットワーク化が求められています。

一方で当地域は、優れた観光資源や農林水産資源の活用による地域振興、企業立地に雇用創出など地方創生のポテンシャルの高い地域であることから、ネットワークの強化によりさらなる発展が期待されています。

このため、東紀州地域の「国土強靱化」や「地方創生」を支える近畿自動車道紀勢線の早期整備が必要です。

4 北勢・中勢地域は、国道 1 号や 23 号における慢性的な渋滞の解消および発生が危惧される大規模災害への備えが求められています。平常時・災害時問わず安全・安心かつ円滑な物流を確保するためには、北勢バイパス、中勢バイパスおよび鈴鹿四日市道路の一体整備が必要です。また、沿線地域で開通を見越した設備投資が進められており、さらなる設備投資を促進するためには、開通見通しが示されていない区間の見通しの早期公表が必要です。

5 国道 1 号伊勢大橋周辺では、著しい渋滞が発生しています。また、伊勢大橋は、昭和 9 年に完成してから長年にわたり激しい道路交通を支え続けてきた結果、著しく老朽化していることに加え、耐荷力不足により 20t 超過車両（特殊車両）が通行できず、迂回している状況です。伊勢大橋の架替で、右折レーンを設置することにより、渋滞を解消するとともに、迂回している生産拠点間の輸送時間を短縮し、物流の効率化を図るためにもその整備推進が必要です。

松阪多気バイパスについては、昨年度に暫定 2 車線で全線開通したものの、交通量が増加したことに伴い、県道鳥羽松阪線との交差点では、逆に渋滞長が増加するなど著しい渋滞が発生していることから、立体交差化の早期工事着手が必要です。

6 鈴鹿亀山地域は産業集積地にあるものの、高速道路へのアクセスに時間を要しています。高速道路への所要時間を短縮し、定時性を確保する鈴鹿亀山道路の都市計画決定に向け、現在進めている都市計画手続きの支援が必要です。

名神高速道路、新名神高速道路、名阪国道が東西方向に走っていますが、それらを南北に結ぶ幹線道路が整備されていません。

伊賀地域のさらなる発展のためには名神名阪連絡道路の整備が必要であることから、早期実現のために調査の推進が必要です。

また、平成 30 年 3 月の道路法改正により、平常時、災害時を問わない安定的な輸送を確保するため、国土交通大臣が物流上重要な道路網を指定し、機能強化、重点支援を実施する「重要物流道路制度」が創設されたことを受け、我が国の物流上、重要な役割を担う、鈴鹿亀山道路および名神名阪連絡道路を「重要物流道路」に指定し、早期整備が必要です。

7 南海トラフ地震の今後 30 年以内の発生確率が 70%程度から 70~80%に引き上げられ、海拔ゼロメートル地帯を流域とする木曾三川においては、早急な堤防の耐震化が求められています。鈴鹿川・雲出川・櫛田川・宮川や勢田川流域においては、低平地が広がっているため、洪水・高潮・津波に対して脆弱な地域となっています。日本経済を支える石油化学コンビナート等の生産拠点が浸水により操業停止となれば、日本経済への影響は甚大であるため、流下能力確保のための治水対策や堤防耐震化などの推進が必要です。

8 上野遊水地、川上ダム、木津川・服部川・柘植川の河道掘削が完成することで、伊賀地域の治水安全度が向上するとともに、川上ダムにより伊賀地域の安定した水道水源確保が図られます。川上ダムは、平成 29 年 9 月からダム本体工事を施工中であり、着実な予算の確保が必要です。上野遊水地は平成 27 年度に運用を開始し、平成 29 年台風第 21 号において約 600 万立方メートルを貯留したことで浸水被害の回避する効果がありました。さらなる治水安全度の向上を図るためには、木津川・服部川・柘植川の直轄河川改修事業の推進が必要です。

また、名張市市街地を河川氾濫から守るには、名張川の直轄河川改修事業の推進が必要です。

9 名張市市街地と大阪・中京圏を結ぶ国道 165 号、近鉄大阪線は多数の土石流危険渓流によって土砂災害のリスクに晒されており、要配慮者利用施設等も保全対象となっています。当該地区において、懸念される土砂・流木災害や河川の氾濫に対するリスク低減が図られるよう、木津川水系直轄砂防事業の推進が必要です。

10 七里御浜海岸は、昭和 30 年代以降、高波などにより海岸侵食が進み、井田地区海岸では前浜がほとんど消失し、高潮被害が発生しています。高潮被害の防止とともに、人工リーフの整備および維持養浜を実施していますが、七里御浜海岸の侵食対策には、事業費が膨大な上、熊野川流域の総合的な土砂管理、河口閉塞対策、景観への配慮など高度な技術が必要です。

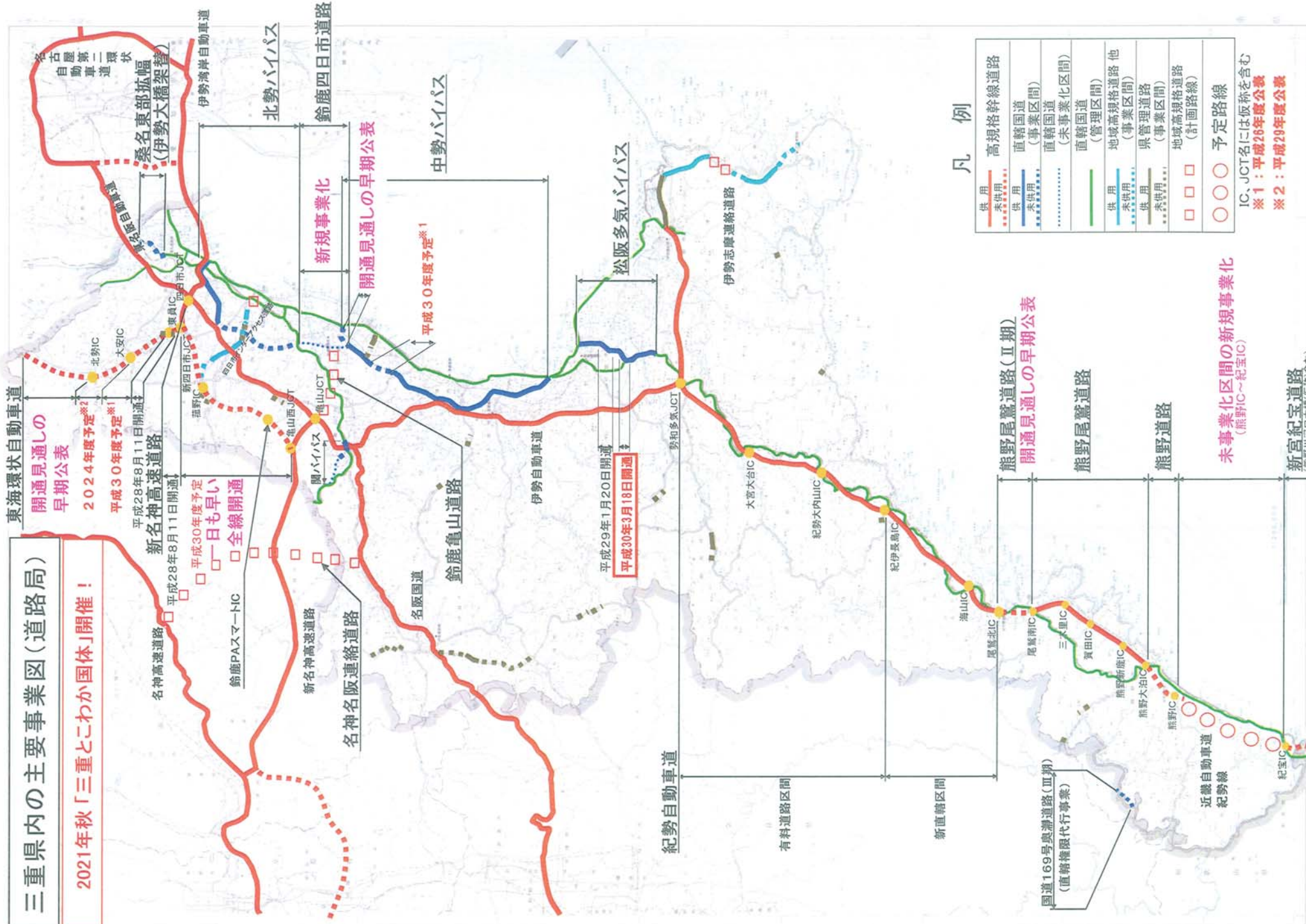
熊野川流域では、堆積土砂撤去等の治水対策や長期化する濁水の影響等が課題となっています。現在、「熊野川の総合的な治水対策協議会」を設置し、堆積土砂撤去、流域の崩壊地対策、利水ダムの運用改善などを行っていますが、熊野川緊急対策特定区間における直轄河川改修事業の推進、国によるマネジメント強化が不可欠です。

- 11 中勢地域の生活や産業の中心地である津松阪港海岸の背後地は、直轄海岸事業が着々と進むことにより地震・津波に対するリスク軽減が進んでいます。一方、巨大台風や南海トラフ地震の発生が危惧されていることから、さらなる事業の推進が必要です。
また、同海岸は、2021年に開催される「三重とわか国体」のセーリング会場やビーチバレーボール会場として決定していることから、国体開催に間に合うよう、引き続き会場周辺の堤防整備を進める必要があります。
- 12 国営木曾三川公園（桑名七里の渡し公園）は、平成27年度に一部開園されましたが、木曾三川を軸とした交流と繁栄の歴史を紹介する場として、また地域活性化・交流促進のため、早期に全面開園することが必要です。
- 13 気候変動に伴う影響により頻発・激甚化する土砂災害に対してソフト・ハード一体となった予防的対策を進めていますが、土砂災害は突発的に発生しその衝撃力は大きく、命の危険を脅かす可能性が高いことから、県民の生命・身体を守るためには早めの避難行動をとることが重要です。県や市町が、土砂災害に係る情報の提供や避難勧告の発令等を迅速かつ的確に行うため、現在提供されている5kmメッシュごとの土壌雨量指数がよりきめ細かに提供され、避難対象の絞り込み等に活用されるよう、情報の高精度（1kmメッシュ）化が必要です。

担当課名 県土整備部道路企画課、河川課、防災砂防課、港湾・海岸課、都市政策課
関係法令等 国土交通幹線自動車道建設法、道路法、河川法、砂防法、土砂災害防止法、海岸法、港湾法、都市公園法 等

三重県内の主要事業図(道路局)

2021年秋「三重とこわか国体」開催！



東海環状自動車道
開通見通しの早期公表

2024年度予定※1
平成30年度予定※1

平成28年8月11日開通
新名神高速道路

平成30年度予定
一日も早い全線開通

名神名阪連絡道路
鈴鹿PAママーIC

名神高速道路

名阪国道
鈴鹿亀山道路

平成29年1月20日開通
平成30年3月18日開通

紀勢自動車道

有料道路区間

新直轄区間

国道169号奥濃道路(Ⅲ期)
(直轄権限代行事業)

近畿自動車道
紀勢線

新宮紀宝道路
(熊野川河口大橋(仮称)含む)

凡例

供用	高規格幹線道路
未供用	直轄国道(事業区間)
供用	直轄国道(未事業化区間)
未供用	直轄国道(未事業化区間)
.....	直轄国道(管理区間)
.....	地域高規格道路他(事業区間)
供用	県管理道路(事業区間)
未供用	県管理道路(事業区間)
.....	地域高規格道路(計画路線)
□ □ □ □	予定路線
○ ○ ○ ○	IC、JCT名には仮称を含む
※1	平成26年度公表
※2	平成29年度公表

熊野尾鷲道路(Ⅱ期)
開通見通しの早期公表

熊野尾鷲道路

熊野道路

未事業化区間の新規事業化
(熊野IC～紀宝IC)

新宮紀宝道路

1 「国民の安全・安心の確保」、「力強く持続的な経済成長の実現」、「豊かな暮らしの礎となる地域づくり」に資する社会資本整備の推進 (国土交通省)

中部圏のものづくりを支える高規格幹線道路整備推進（東海環状自動車道）

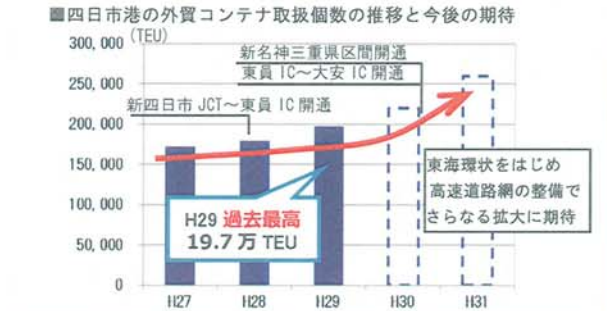


四日市港を活用した物流の生産性向上

○四日市港の物流効率化に向けた施設の充実



○四日市港の外貿コンテナ取扱個数が過去最高



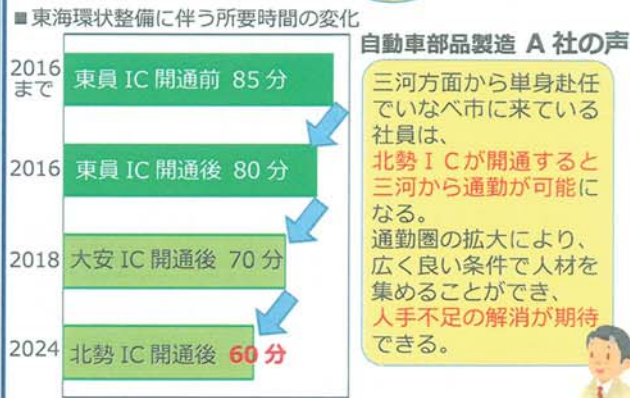
○東海環状自動車道早期全線開通への期待(産業面)



さらなる四日市港の活用のため早期全線開通を

人手不足解消に向けた沿線企業の期待の声

○三河方面に関連会社があるA社の整備効果事例

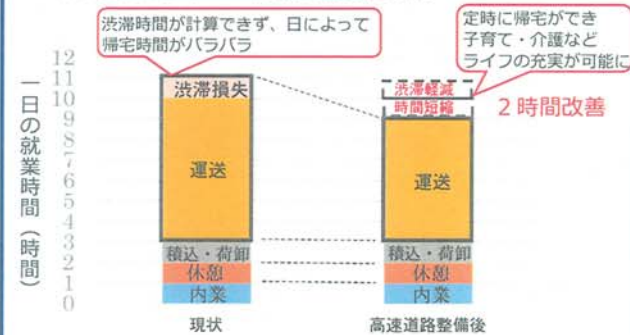


三河方面からいなべ市へ通勤可能に 人手不足解消へ

○早期全線開通に向けた物流業者B社の声

物流業界はドライバー不足が大きな課題。渋滞により業務終了時間が計算できない。速達性による生産性の向上や定時性による労働環境の改善につながる高速道路の早期整備に期待している。

■トラックドライバーの就業時間改善の例



労働環境改善による人材確保に期待

- 要望
- 1 東海環状自動車道大安IC(仮)～北勢IC(仮)間の公表された供用見込みより一日も早い開通を図るよう、さらに整備を加速すること。
 - 2 北勢IC(仮)～岐阜県境間の開通見通しの公表、早期全線開通に向け整備を推進すること。

1 「国民の安全・安心の確保」、「力強く持続的な経済成長の実現」、「豊かな暮らしの礎となる地域づくり」に資する社会資本整備の推進

(国土交通省)

中京圏の高速道路料金体系の早期見直しと重要物流道路を担う幹線道路網整備のスピードアップ

○中京圏の高速道路料金体系の見直しについて

・社会資本整備審議会国土幹線道路部会〔(仮称)中京圏小委員会〕で検討開始



○県内企業の声

○自動車部品製造 A社
・ものづくりにおいて、効率的な輸送もさることながら、ジャストインタイム方式の生産体制には、**定時性の確保が重要**
・**ドライバー不足が深刻であり、渋滞解消による物流効率化は欠かせない**

○県内大手物流 B社
・**物流業界における人手不足は深刻**
輸送の効率化が課題であり、渋滞を解消するなどの高速道路の取組は重要
・東海環状自動車道の整備により、四日市港の取扱貨物量の増加予想され、**早期整備に期待している**

中京圏のものづくりを支えるため、高速道路を賢く使う取組を進めることが必要

○中京圏のものづくりを支える高速道路を賢く使うため、料金体系の早期の見直しと東海環状等の必要なネットワーク整備に向けた財源確保が必要！

○三重県内の幹線道路ネットワークの整備推進



○自動車部品製造 A社
・県内の製造拠点から四日市港や名古屋港への輸送において、**幹線道路に渋滞があり、製品輸送の効率が悪い**
・**人手不足の中、渋滞が解消され、港までの輸送回数が増加すれば、物流輸送の効率化に大きく寄与する**

○バス事業 C社
・域内交通と産業交通が混在して渋滞が発生しており、**バス運行において定時性が確保できず、結果、客離れにつながっている路線がある**

○南海トラフ地震を見据え、**国土強靱化につながる道路整備が必要**

県内製造拠点から港湾等を結ぶ重要な物流ルート等、幹線道路網の早期整備が必要

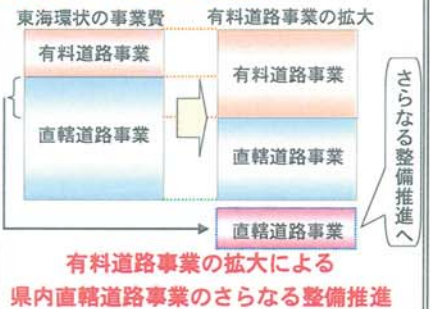
○重要物流道路を契機とした新たな広域道路交通計画

H30.3道路法改正により「重要物流道路制度」が創設
物流上重要な道路輸送網を「重要物流道路」と指定し機能強化、重点支援を実施

新広域道路交通計画・・・中長期的な観点から計画を策定
新たな国土構造の形成 グローバル化 国土強靱化等
「平常時・災害時」を問わない「物流・人流」の確保・活性化

「重要物流道路」の指定、「新広域道路交通計画」の策定による幹線道路網の整備推進が必要

○直轄道路事業の推進



○製造拠点から港湾等を結ぶ重要な物流ルートとなる幹線道路網の整備について、**新たな財源を活用し、「新広域道路交通計画」の早期作成・推進が必要！**

要望 1 中京圏の高速道路ネットワークを賢く使うとともに、必要なネットワーク整備のスピードアップに向けた財源確保のため、早期に中京圏の高速道路料金の見直しを進めること。
2 重要物流道路を契機とした「新広域道路交通計画」をふまえ、有料道路事業拡大による財源を活用し、直轄道路事業のさらなる整備推進を行うこと。

1 「国民の安全・安心の確保」、「力強く持続的な経済成長の実現」、「豊かな暮らしの礎となる地域づくり」に資する社会資本整備の推進

(国土交通省)

東紀州地域の国土強靱化や、地方創生を支える近畿自動車道紀勢線

ミッシングリンクが残る紀伊半島一周高速道路



開通の期待高まる熊野尾鷲道路(Ⅱ期)



未事業化区間における事業実施環境



台風・豪雨による国道42号の通行止



未事業化区間の事業環境



要望

- 1 熊野尾鷲道路(Ⅱ期)の開通見通しを早期公表すること。
- 2 拡充した「近畿道紀勢線推進プロジェクトチーム」を活用し、熊野道路・新宮紀宝道路の一層の事業推進を図ること。
- 3 熊野IC(仮)～紀宝IC(仮)間の未事業化区間(約16km)を平成31年度新規事業化すること。

1 「国民の安全・安心の確保」、「力強く持続的な経済成長の実現」、「豊かな暮らし礎となる地域づくり」に資する社会資本整備の推進

(国土交通省)

平常時・災害時を問わない円滑な物流の確保、地域経済の活性化に資する道路整備 (北勢バイパス、中勢バイパス、鈴鹿四日市道路)

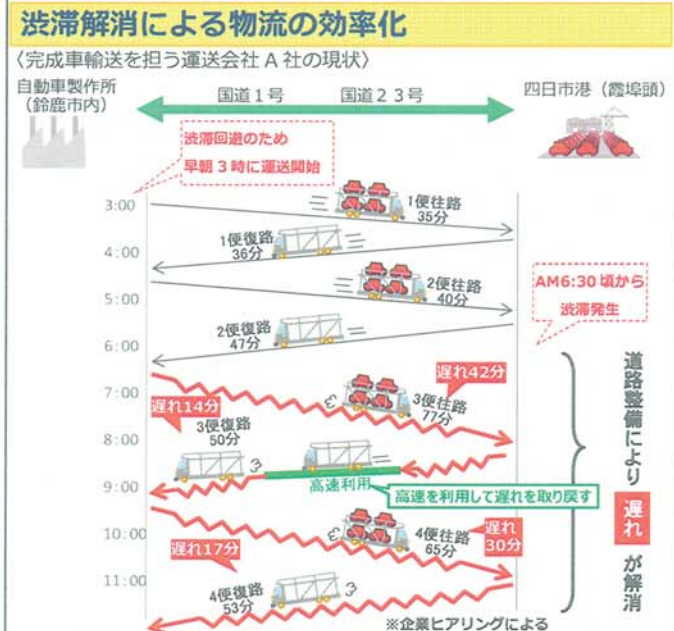
国道 1 号・23 号の慢性的な渋滞

【国道1号(日永三交差点)の渋滞状況】



国道 1 号の中で
渋滞ワーストランキング
3 年連続第 1 位
渋滞損失時間は
約 7 2 0 万人時間/年

毎年約 4 千人の労働力の損失に相当!



現状で 4 往復に合計約 6.7 時間を要するが、渋滞解消により合計約 5 時間に削減可能 (25%削減)

道路整備による効果

- 経費削減**
渋滞による遅れを取り戻すための高速利用料金やドライバーの残業手当が削減される
- 就業環境改善**
現状で 1 日 10 時間を超える勤務時間が渋滞解消により約 1.7 時間短縮される

道路整備による輸送時間の短縮がドライバー不足解消や生産性の向上に寄与!

ダブルネットワーク形成による減災化

(津波浸水予測図)



南海トラフ想定規模地震発生

国道 23 号の 6 0 % が津波により浸水

緊急輸送道路である国道 23 号が寸断の可能性

※国土交通省ハザードマップポータルサイトを基に三重県推定

被害が広範囲かつ長時間に及び、日本経済への影響は甚大となる

内陸を通る鈴鹿四日市道路の事業化は災害時のリダンダンシー確保に直結!

※国土交通省ハザードマップポータルサイトによる

開通見通し公表が企業立地の後押しに

(中勢北部サイエンスシティの企業立地数)



新規進出企業数

増加

26 社進出 (H16~H22) (公表前 7 年間)

34 社進出 (H23~H29) (公表後 7 年間)

H23 年度 中勢 BP10~12 工区 開通見通し公表

【工業製品を扱う運送会社 B 社の声】

中勢バイパス全線開通を見据えサイエンスシティへ新たに事業所を設置しました。中南勢方面に販路を拡大し、新規顧客を増やしていきたい。

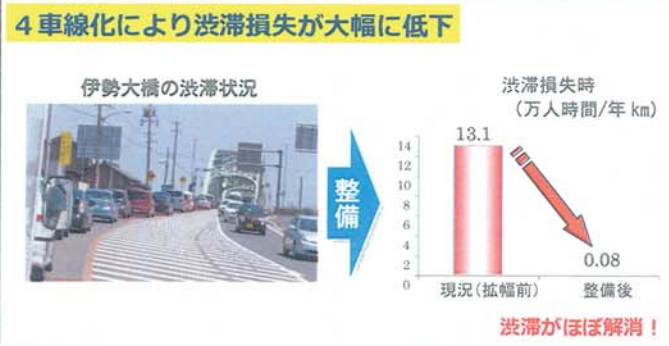
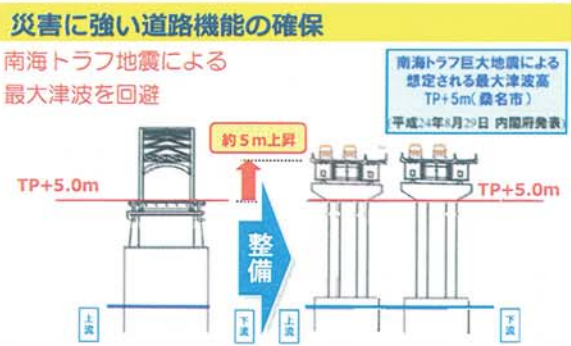
開通見通しの早期公表が企業進出を促し地域経済の好循環を生みます!

- 要 望
- 1 国道 1 号北勢バイパスの国道 477 号バイパスまでの開通見通しの早期公表、全線開通に向けた整備を推進すること。
 - 2 国道 23 号中勢バイパスの全線開通に向けた整備を推進、既開通区間の渋滞解消に向けた 4 車線化や立体化を推進すること。
 - 3 鈴鹿四日市道路を平成 31 年度新規事業化すること。

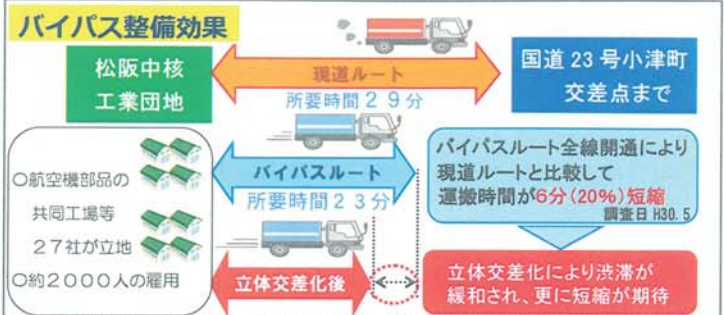
1 「国民の安全・安心の確保」、「力強く持続的な経済成長の実現」、「豊かな暮らしの礎となる地域づくり」に資する社会資本整備の推進

(国土交通省)

物流効率化・産業振興を図り、災害時の安全・安心の確保に大きく寄与する事業の推進
国道1号桑名東部拡幅（伊勢大橋架替）



朝田町南交差点の**立体交差化**で企業の生産性向上
国道42号松阪多気バイパス



- 要望
- 1 国道1号桑名東部拡幅（伊勢大橋架替）の整備を推進すること。
 - 2 国道42号松阪多気バイパスの渋滞区間の立体交差化に早期工事着手すること。

【県土整備部】

1 「国民の安全・安心の確保」、「力強く持続的な経済成長の実現」、「豊かな暮らし礎となる地域づくり」に資する社会資本整備の推進 (国土交通省)

平時・災害時においても重要物流道路としての機能を期待（鈴鹿亀山道路・名神名阪連絡道路）

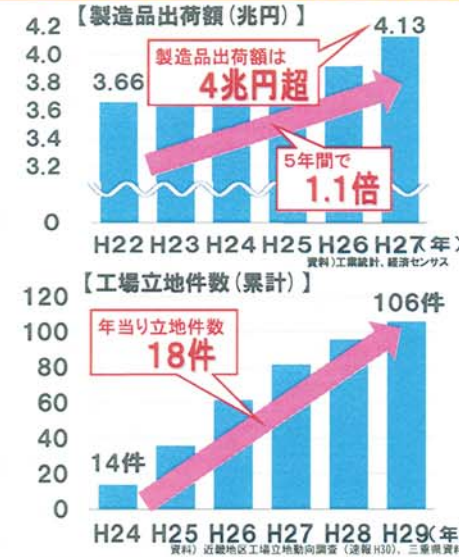
鈴鹿亀山道路 高速道路への直結、特車対応により物流ネットワークを強化

三重県における主要工場の生産性向上を支援

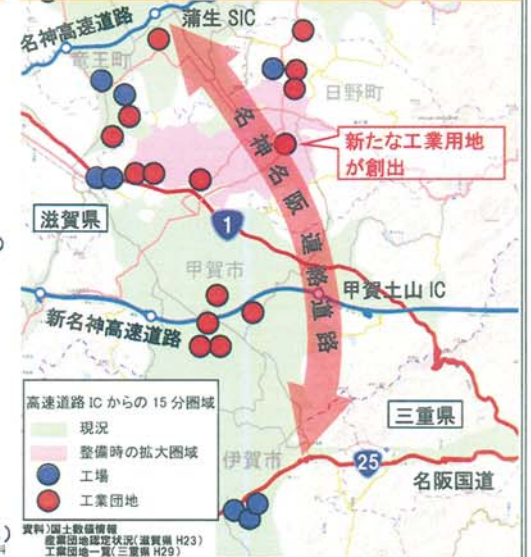


名神名阪連絡道路 幹線道路として、伊賀地域の産業・物流・観光の発展を支援

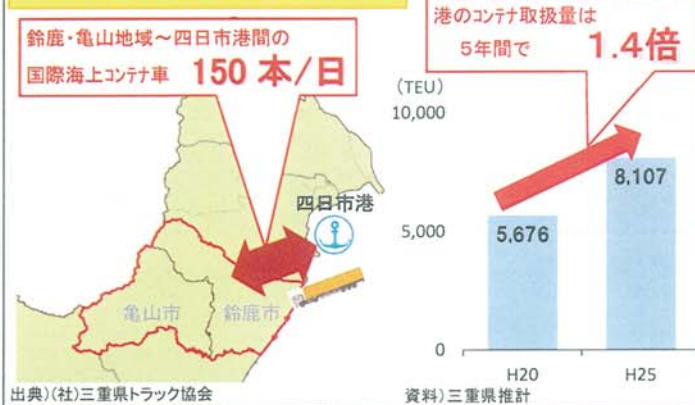
拡大し続ける沿線地域の製造業



沿線の製造業の集積促進を支援



四日市港のコンテナ搬送を支援



<企業集積地域内の運送会社の声>

・鈴鹿亀山道路が整備されることで鈴鹿ICや亀山IC、四日市港への新ルートとなり、フルトレーラー等での定時性や安全性向上に貢献します。

国際海上コンテナ(40ft 背高)の搬送状況(セミトレーラー搬送時)

増加するインバウンド観光



名神名阪連絡道路シンポジウム(H30.7)

一般来場者 約750名が出席

二階 俊博氏 (衆議院議員 自民党幹事長)

- 名神名阪連絡道路は、国土強靱化をもたらす。
- シンポジウムが、本道路の前進に向けた大きな一歩となるよう祈念する。

坂本 克己氏 (全日本トラック協会会長)

- 物流上、重要な道路が「重要物流道路」として指定されることとなった。
- 製造や販売の前に物流あり。

要望

- 1 鈴鹿亀山道路の都市計画決定手続きに関する調査を支援すること。
- 2 名神名阪連絡道路の国による調査を推進し、早期実現を図ること。
- 3 鈴鹿亀山道路および名神名阪連絡道路を「重要物流道路」として指定すること。

1 「国民の安全・安心の確保」、「力強く持続的な経済成長の実現」、「豊かな暮らしの礎となる地域づくり」に資する社会資本整備の推進

(国土交通省)

木曾三川

- 国内最大の海拔ゼロメートル地帯
- 全国第2位の観光施設や生産拠点が立地

流域の特性



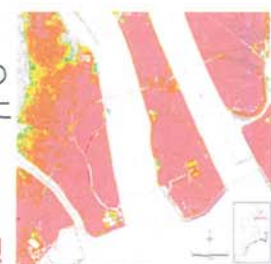
ナガシマリゾート年間入場者数 1,530万人 (H29年度)

現在の主な取組

□海拔ゼロメートル地帯等における堤防耐震対策

課題

- 南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率が70%程度から70%~80%に上昇!
- 地震により堤防が沈下した場合、津波浸水被害が広範囲かつ長時間に及び、**日本経済への影響は甚大!**
- 津波対策区間進捗率 約40%



津波浸水予測図
三重県 H26.3月公表

早期課題解決に向けて

切迫する南海トラフ地震に備え、堤防耐震対策の更なる推進が必要!

鈴鹿川・雲出川・櫛田川・宮川

流域の特性

- 道路(国道23号)鉄道(近鉄・JR)等の幹線交通網
- 石油コンビナート等の生産拠点や主要な市街地を形成
- 人口 約113万人(県内人口の63%)
出典:人口調査結果(H30.7.1)
- 製造品出荷額 約6.4兆円(県内製造品出荷額の64%)
出典:工業統計調査結果(H29.6.1)

現在の主な取組

□水害の頻発・激甚化に対応する治水対策(築堤整備、河道掘削)

洪水の頻発・激甚化!

- 平成29年10月(台風第21号)洪水では、四水系の基準地点(13地点)の内、**10地点で氾濫危険水位を超過!**

課題

- 洪水・津波等により堤防が決壊した場合、生産拠点の浸水や、交通の遮断により、**日本経済への影響は甚大!**

早期課題解決に向けて

水害の頻発・激甚化を踏まえ、治水対策・堤防耐震対策の更なる推進が必要!

勢田川

平成29年台風第21号

- 累積雨量584mm(観測史上最大)により、甚大な被害が発生!
- 被害状況(伊勢市)
 - 死者 1名
 - 床上浸水409棟
 - 床下浸水670棟



伊勢市内の浸水状況

現在の主な取組

- 勢田川流域等浸水対策協議会設立(H30.1.26)
- 勢田川流域等浸水対策実行計画策定(H30.6.19)

取組内容

国・県・伊勢市が連携

- 短期計画(今後5年程度)
 - 国:河道掘削(勢田川)等
 - 県:暫定河道掘削(桧尻川)等
 - 市:雨水排水ポンプ増強(黒瀬ポンプ場)等
- 中長期計画(今後20~30年程度)
 - 国:排水機場ポンプ増強(勢田川)等
 - 県:河川整備(桧尻川)等
 - 市:下水道(雨水)整備(勢田川流域等)等

課題

- 平成29年10月(台風第21号)洪水をふまえ、**早期の被害軽減対策が必要!**

早期課題解決に向けて

再度災害防止のため、治水対策の更なる推進が必要!

要望 浸水被害軽減のため、木曾三川および鈴鹿川・雲出川・櫛田川・宮川、平成29年台風第21号により甚大な被害が発生した勢田川において、治水対策および地震・津波対策を推進すること。

【県土整備部】

1 「国民の安全・安心の確保」、「力強く持続的な経済成長の実現」、「豊かな暮らしの礎となる地域づくり」に資する社会資本整備の推進

(国土交通省)

川上ダム・木津川直轄河川事業

伊賀地域は、近畿圏、中部圏の2大都市圏の中間に位置し、企業立地に好条件！



地域の現状

■低い治水安全度

・数年に一度は浸水

最近の浸水	事象	浸水面積	浸水戸数
最近の浸水	H21.10 台風18号	5.3ha	32戸
	H24.9 台風17号	0.07ha	38戸
	H25.9 台風18号	28ha	150戸

■不安定な水道水源

- ・水源の一部は、川上ダム建設を前提とした暫定水利権
- ・既存水道施設も老朽化

3点セットで「治水安全度の向上」と「安定的な水源の確保」を実現！



●治水安全度が向上！

戦後最大規模の洪水 (S28 台風第13号) による被害が**ゼロ**に！
 浸水戸数 844戸 ⇒ 0戸 浸水面積 526ha ⇒ 0ha

●川上ダムにより安定的な水源の確保！

川上ダムは計画的に進捗中！

事業工程

	2017	'18	'19	'20	'21	'22
ダム本体工事						
試験湛水						

- 2018年 8月 転流工完了
- 2018年 9月 基礎掘削開始
- 2019年 9月 本体コンクリート打設予定



2022年度事業完了に向けた着実な予算確保を！

河道掘削の推進

上野遊水地の整備により・・・

近畿地方に大きな被害をもたらした平成29年台風第21号において約600万㎡の貯留、約160haの浸水面積、約760戸の被害を解消と推定

3点セットすべて完成することが必要！

更なる治水安全度向上のため、木津川・服部川・柘植川の河道掘削の推進を！

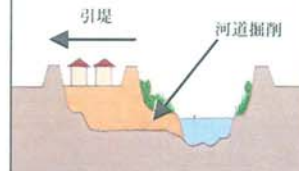
名張川直轄河川事業



現在の主な取組

- 堤防整備(引堤)
- 河道掘削、樹木伐採

■引堤イメージ図



近年の洪水(平成29年台風第21号)

- ・名張水位観測所において氾濫危険水位を超過し、道路冠水、床下浸水が発生
- ・上流ダム群(青蓮寺ダム・室生ダム・比奈知ダム)の特別防災操作がなければ、0.4m水位上昇(推定)し、さらに被害の拡大が想定！
- ・上流ダム群が本来有している洪水調節機能を発揮させるためには、名張川の事業推進が必要！



更なる治水安全度向上のため、引堤・河道掘削の推進を！

要望

- 1 川上ダムについては、2022年度の事業完了に向け、必要な予算を確保するとともに、一日も早く完成すること。
- 2 名張川および木津川・服部川・柘植川の直轄河川改修事業を推進すること。

1 「国民の安全・安心の確保」、「力強く持続的な経済成長の実現」、「豊かな暮らしの礎となる地域づくり」に資する社会資本整備の推進

(国土交通省)

木津川水系直轄砂防の推進

位置図

木津川

木津川水系直轄砂防事業

砂防整備計画
2016(H28)～2025年
約20 渓流を整備
(奈良・三重 両県分)

○人口8万人の名張市
○大阪・奈良・三重を東西に結ぶ主要な交通基盤
国道165号【交通量 約2万台/日】
近鉄大阪線【名張駅乗降人員 約1万2千人/日】
が土砂災害と氾濫から守られ、
住民、主要な交通基盤と利用者の安全が確保されます。

実施箇所図 (名張市防災マップ)

中小河川緊急治水対策プロジェクト
【土砂・流木対策】
谷出3、谷出4
透過型砂防堰堤を整備

坂ノ下2
谷出3
谷出4

宇陀川

赤目口駅

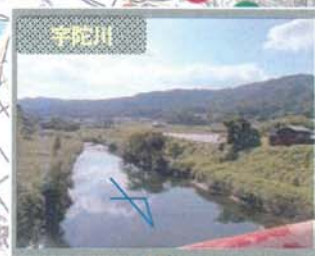
通所介護オルゴール

市立錦生保育所

水位流量観測所(安部田)

錦生警察官駐在所

避難所
旧錦生小学校 体育館



さらなる事業の推進を!

土石流危険渓流が宇陀川沿いに連担しており、要配慮者利用施設、公共施設、国道などが保全されます!



● 谷出第3堰堤、谷出第4堰堤

谷出第4堰堤

谷出第3堰堤

工事用道路

避難所

要配慮

国道165号

宇陀川

保全人家戸数 87 戸

名称	完成済み	2018 実施	2019 計画
谷出第4堰堤	●	●	●
谷出第3堰堤	●	●	●

事業実施概要

	谷出3	谷出4	坂ノ下2
平成 30 年度			
堰堤工		用地買収	—
平成 31 年度			
堰堤工	堰堤工	堰堤工	用地買収

● 坂ノ下第2堰堤

土石流危険渓流

土石流災害警戒区域

土石流災害特別警戒区域

坂ノ下第2堰堤

国道165号

宇陀川

保全人家戸数 46 戸

要 望 三重県内における木津川水系直轄砂防事業をより一層推進すること。

1 「国民の安全・安心の確保」、「力強く持続的な経済成長の実現」、「豊かな暮らしの礎となる地域づくり」に資する社会資本整備の推進

(国土交通省)

七里御浜海岸

七里御浜海岸の課題



対策費 約310億円
人工リーフ約262億円
堤防 約14億円
養浜 約34億円

残事業費 約1,077億円
人工リーフ 約824億円
堤防 約39億円
養浜 約213億円
莫大な費用と時間が必要

これまでの整備 1983年 (35年間) 2018年 108年間? (約10億円/年) 2126年?

平成29年台風第21号により堤防が被災

七里御浜海岸は、外海に面しており波浪が大きいことから、過去10年で3度の被災



被災履歴
・H23.9 台風12号 堤防工337m 人工リーフ2基
・H25.9 台風18号 人工リーフ1基
・H29.10 台風21号 堤防工40m

熊野川

平成30年の台風第20号 和歌山県日足地区において 床上浸水発生!

流域の課題

◎長期化する濁水の軽減

◎堆積土砂撤去等の治水対策



現在の取組

河道掘削 (平成29年度着手)

●「熊野川の総合的な治水対策協議会」 ●国: 「緊急対策特定区間」で実施

●県: 交付金事業で実施

取組内容

- 治水対策
河川管理者による堆積土砂撤去
利水ダムの治水運用の実施
- 濁水対策
流域の崩壊地対策の実施
堆積土砂撤去、ダムの施設改善
ダムの運用改善(濁水早期排出)

ダムの施設改良



成果

- 平成30年の台風第20号では、河道掘削により、成川地点で約1.0mの水位低減効果を確認
- 濁水対策の取組である風屋ダム表面取水設備改造工事の完了

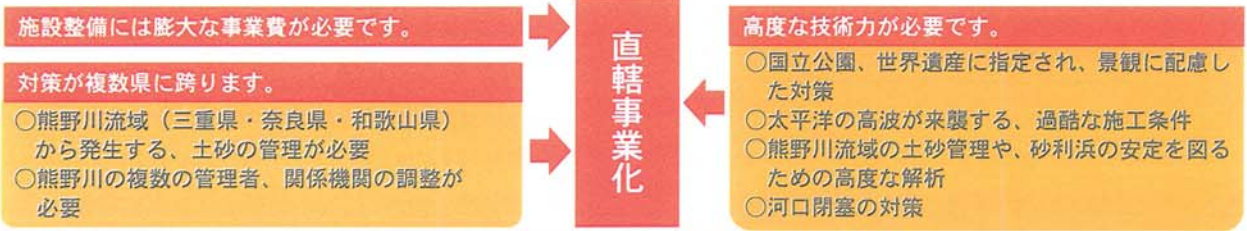
早期課題解決に向けて

- 緊急対策特定区間における直轄河川改修事業の更なる推進
- 協議会でとりまとめた取組を確実に実施するため、国によるマネジメントの強化

海浜侵食状況 (井田地区海岸)



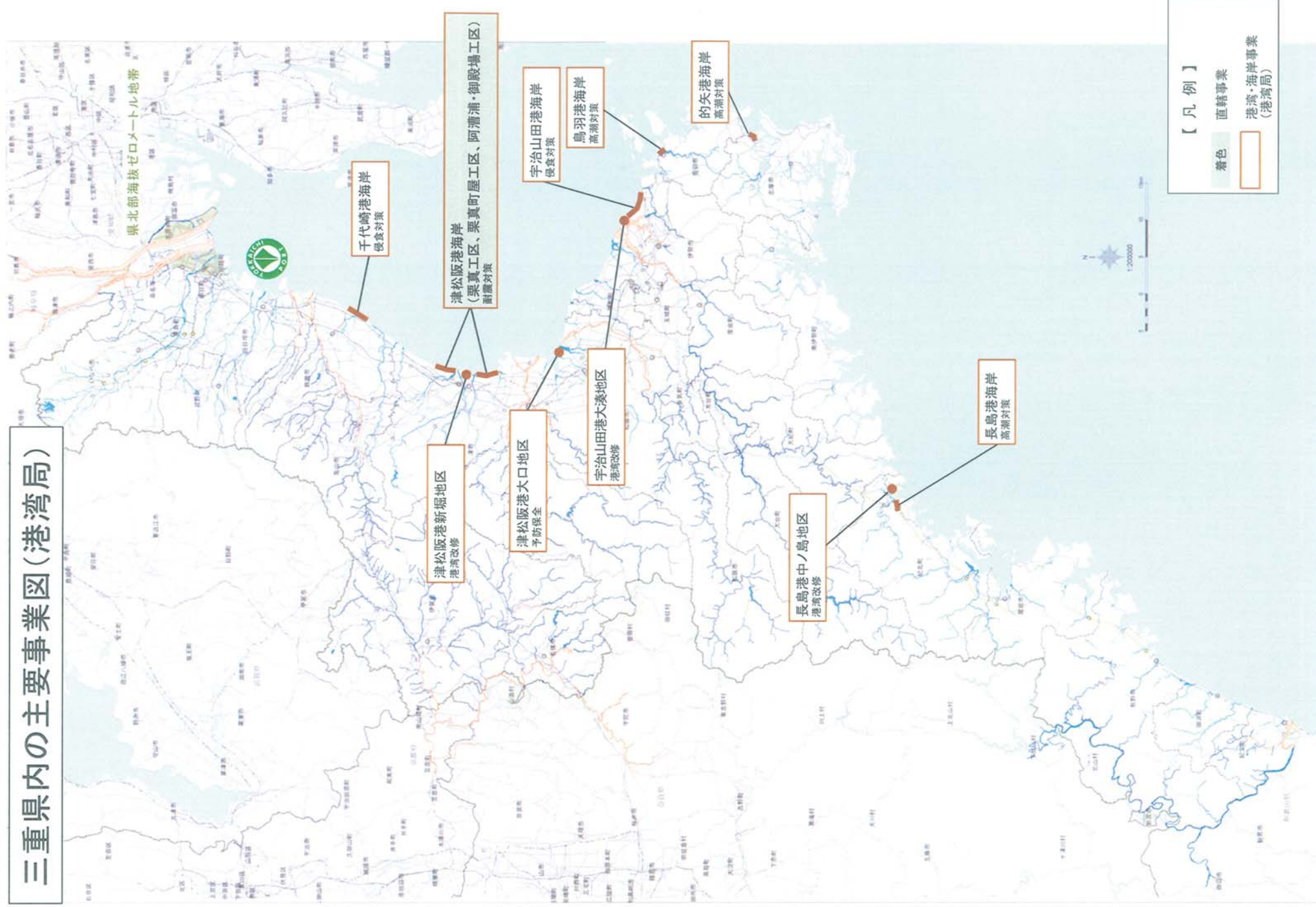
熊野川直轄河川改修事業による掘削土砂を大規模に投入することにより、海浜が安定しています。



要望	<ol style="list-style-type: none"> 1 七里御浜海岸における侵食対策を直轄事業化すること。 2 熊野川緊急対策特定区間における直轄河川改修事業を推進すること。 3 熊野川の総合的な治水対策協議会でとりまとめた取組を確実に実施するため、国によるマネジメントを強化すること。
----	---

【県土整備部】

三重県内の主要事業図(港湾局)



1 「国民の安全・安心の確保」、「力強く持続的な経済成長の実現」、「豊かな暮らしの礎となる地域づくり」に資する社会資本整備の推進

(国土交通省)



海岸堤防の耐震化により背後地の安全・安心が向上
様々なストック効果が発現しています。



①株式会社百五銀行
新本館ビルの建設 (H27)
・津市避難ビルとして活用
・延べ床面積36千㎡/2棟



②三重大学附属病院
新外来病棟を新設 (H27)
・最新のCT装置などを導入
・延べ床面積28千㎡



③倉敷紡績(株)三重工場
建物・設備の拡大 (H24)
・生産・開発体制を強化
・延べ床面積約15千㎡

公開シンポジウム「津の海を考える」
平成30年9月15日開催
主催 中部地方整備局・三重県・津市

津の海岸を考えるシンポ
主催：国土交通省中部地方整備局・三重県・津市



中部地方整備局 勢田局長による主催者挨拶

国体会場周辺の整備状況



セーリング会場付近

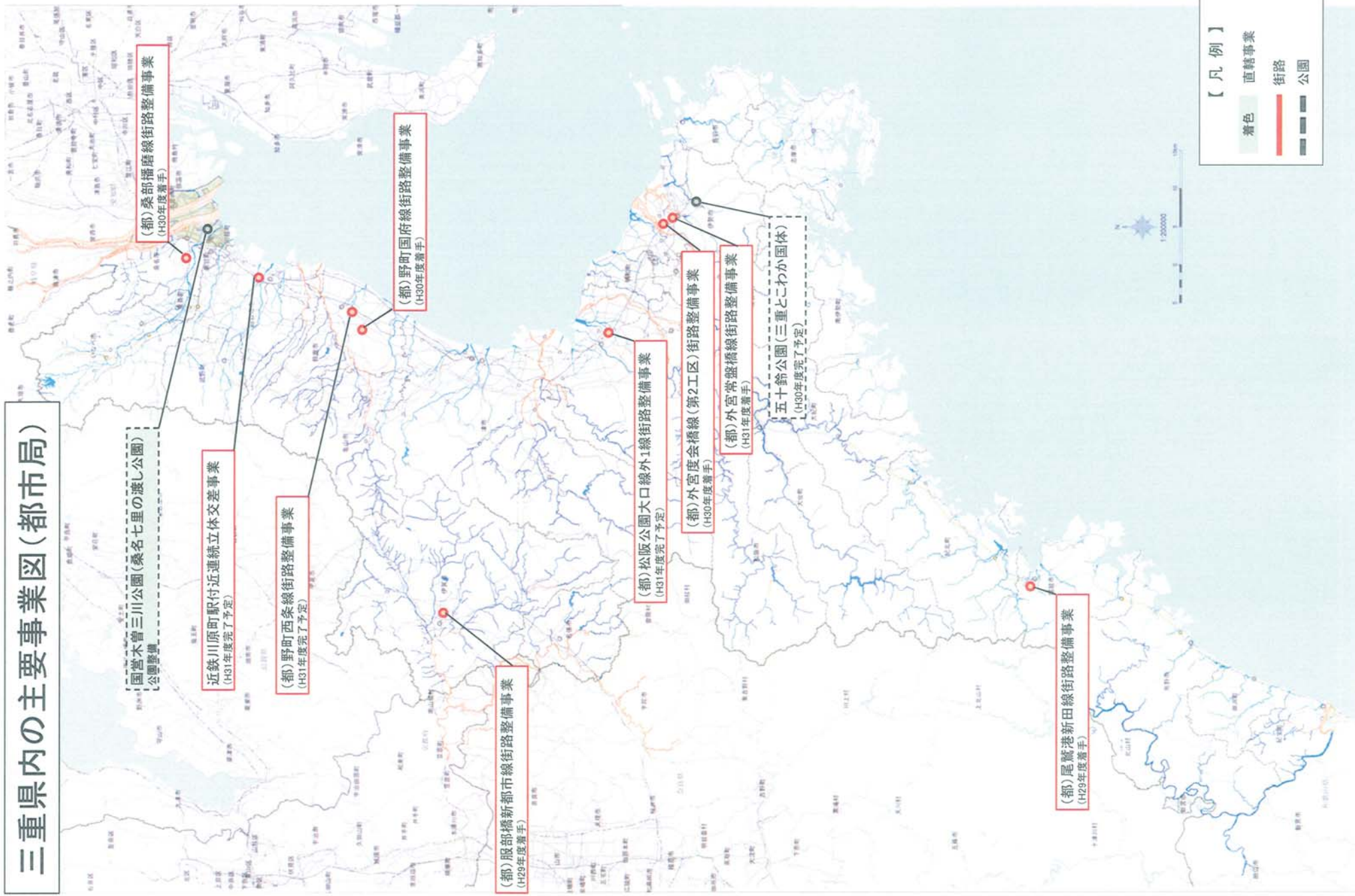


ビーチバレーボール会場付近

要望 2021年開催「三重とこわか国体」会場周辺を含む津松阪港直轄海岸事業を強力に推進すること。

【県土整備部】

三重県内の主要事業図(都市局)



1 「国民の安全・安心の確保」、「力強く持続的な経済成長の実現」、「豊かな暮らしの礎となる地域づくり」に資する社会資本整備の推進

(国土交通省)

国営木曾三川公園（桑名七里の渡し公園）の整備推進

桑名七里の渡し公園

住吉地区未供用区域の早期供用を！

七里の渡し地区の整備着手を！

H30年度工事継続

供用区

イメージ図

掛垂

公園周辺は歴史資産の宝庫！



全国国営公園ナンバー1!



さらなる活用拡大のチャンスが到来しています！

新たな観光客の取り込みと多様な体験型コンテンツ

インバウンド需要の変化
モノ消費 から コト消費
(爆買い → 体験観光)

隣接する住吉浦休憩施設
レンタサイクルの活用

四日市港に外国客船が初寄港！
(H30) コスタ ネオロマンチカ 1回
ダイヤモンド・プリンセス 4回

観光客が県内観光地を巡る新たなルートが開拓されました！

ボランティアガイドと巡る歴史散策

- ・桑名七里の渡し公園
- ・六華苑
- ・諸戸氏庭園など

桑名市物産観光案内所で受付

鑄物工場見学、鑄造体験

- ・市内には約30の鑄物工場があります

交通インフラの整備により飛躍的にアクセスが向上

国道1号桑名東部拡幅事業

リニア新幹線が名古屋へ
2027年 東京～名古屋間開通！
リニアで40分

JR等で20分

東京

桑名

名古屋

インフラ整備は更なる観光誘客につながるチャンス！

高い地域ポテンシャルを生かした公園整備を！

名古屋から桑名へ

大阪から桑名へ

新名神 高速道路

四日市から桑名へ

四日市港

桑名七里の渡し公園

新名神高速道路整備事業
平成30年度開通！
新四日市JCT～亀山西JCT

桑名駅周辺地区整備事業

桑名駅や駅周辺がより便利に生まれ変わります！

要望 国営木曾三川公園(桑名七里の渡し公園)を早期に全面開園すること。

【県土整備部】

1 「国民の安全・安心の確保」、「力強く持続的な経済成長の実現」、「豊かな暮らしの礎となる地域づくり」に資する社会資本整備の推進 (気象庁)

土壌雨量指数の高精度化

土砂災害は命の危険を脅かすことが多いため、避難行動をできるだけ早く行うことが必要

市町村には、避難勧告等の迅速かつ的確な判断が求められている！

(土砂災害防止対策基本指針(平成27年1月、国土交通省))

気象庁のメッシュ情報
(土砂災害警戒判定用)

市町村の避難勧告等

住民の避難行動

また、メッシュ情報を用いた避難対象の絞り込みが求められている！

(避難勧告等に関するガイドライン(平成29年1月、内閣府))

「新たなステージに対応した防災・減災のあり方」(平成27年1月、国土交通省)への対応

国、都道府県には、きめ細かな情報の提供が求められている！

- 住民の避難を促進するためには、気象予警報等の各種防災情報について、必要な改善等を進めていく必要がある。

「新たなステージに対応した防災・減災のあり方」を受けた国と県の具体的な取組

国は 土壌雨量指数を高頻度化
(気象庁、平成30年3月)

- ✓ 高頻度化(10分更新)
更新時間の短縮【30分⇒10分】
従来よりも最大20分迅速に！

△ 高精度化(1kmメッシュ)未了

県は「情報提供システム」を再構築
(三重県、平成30年3月)

- ✓ 高頻度化(10分更新)に対応！

- ✓ 高精度化(1kmメッシュ)に対応！
- ☆ メッシュ情報を学校区単位など地域別表示！

現状

土壌雨量指数は5kmメッシュで提供されている

- ▲ 避難対象の絞り込みが困難な状況
- ▲ 地域・警戒区域ごとの危険度が不明確

市町村から精度向上の要望が出されている

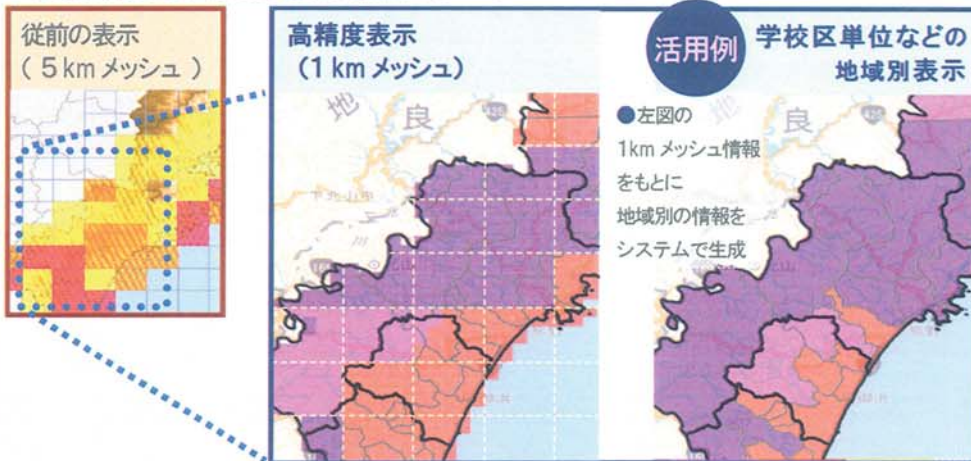
高精度化

1kmメッシュ化

土壌雨量指数の高精度化の早期実現を！

- ❁ 避難勧告等の発令単位に合わせた情報提供が可能に！
- ❁ 危険度が地域・警戒区域ごとに明確となり、避難行動の判断材料に！
- ❁ 住民や要配慮者利用施設の管理者等による地域ぐるみの避難促進に！

▼高精度化された情報の活用イメージ



要望 市町における警戒避難体制を支援するため、土壌雨量指数の高精度化を早期に実現すること。

【県土整備部】